夏季特集号

シリウスビジョン、ウェビナーで画像検査の「新たなステージ」示す

AIシステムやインキ測定技術の進化など発表

シリウスビジョンは6月21日、オンライン会議ツール「Zoom」を活用したウェビナー「シリウスビジョンフェア2023」を開催した。

同ウェビナーは「SmartInnovation」がテーマ。冒頭、辻谷潤一社長が「進化続けるシリウスビジョンの画像検査技術AIとDXによる革新で新たなステージへ」と題して講演した。

同社オンリーワンの基幹技術を提唱すると共に、画像検査を活用することで印刷工場の自動化につながる点を解説。目視による検査では、作業員の熟練度によってばらつきが生じてしまい、不良の見落としが起きる一方、検査ソリューションでは検査基準の統一化が図れるという。

加えて辻谷社長は、印刷現場においてAIの活用が進んでいる点に言及。同社が提供するAIシステム「Sirius-AIS」では、検査結果の欠陥分類を自動で行い不良品発生の原因を追究する。また検査結果を学習し、印刷デザインや製版、基材、印刷工程の見直しにもなるという。加えてSirius-AISは、同社製の検査ソリューションに限らず活用できる汎用性の高さもアピールした。

辻谷社長は「AIと合わせクラウドシステムとの連携でオートメーション化を図れば、印刷無人工場の誕生もそう遠くない未来に実現しうるだろう」と述べる。

新製品のセッションでは、コンパクト設計でかつ容易な操作を実現するという「Smartシリーズ」を紹介した。同シリーズは、シートとロールタイプの検査装置群。従来機の高速化、高精度といった機能を追求した特徴の一方で、人を選ばない扱いやすさ、省スペースでも設置可能など〝使い勝手のよい身近な検査機〟という。

発表したのは商品企画リーダーの遠藤秀和氏。「搬送機と検査の状況を確認するパソコンが一体型で、1人で作業をこなせる〝ワンオペサイズ〟になっている。またキャスター付きのため、据え置きせずマシンごと移動できる新たな検査作業の実現を推奨したい」と、紹介する。

なお7月5日(水)から3日間、江東区有明の東京ビッグサイトで行われる展示会「第25回インターフェックスジャパン」において、「小型縦軸ロール検査機S-LabSmart」などを披露する予定としている。

そのほか「インキ濃度測定技術の進化」の発表では、インラインかつリアルタイムでインキ量や基準濃度との差分を測定することが可能になった点などを明らかにした。

コンパクト設計でかつ容易な操作性を実現するという「Smartシリーズ」も紹介した。同シリーズはキャスター付きモデル